

デング熱の感染もと

ヒトスジシマカの発生源を叩け!

公園だけでは
ありません!



屋外に放置された
子供のおもちゃ



植木鉢の皿



雨ざらしのじょうろ



排水溝



屋外に放置された
空きビン・缶、ペットボトル



古タイヤに
溜まった水たまり

デング熱の原因となるデングウイルスは、デング熱に感染した人の血を吸った蚊(日本ではヒトスジシマカ)の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。感染してもすべての人に症状がでるわけではありませんが、高熱や関節の痛み、目の奥が痛くなるといった症状が1週間から2週間ほど続きます。ヒトスジシマカは、空き缶に溜まった雨水など、小さな水たまりを好んで卵を産み付けます。住まいの周囲の水たまりを無くすことで、今シーズンや翌年に発生する蚊の数を減らすことができます。

デング熱は人から人へは
感染しません。

【ヒトスジシマカ】

背中一本の白い線とW字状の模様がある4.5mmほどの蚊で、5月中旬から10月下旬まで活動します。雑木林や竹林などで繁殖し、最近では藪・墓地・公園などでも見られるようになりました。特に日中に活発に吸血します。活動範囲は50~100m程度です。



■ デング熱について

- デング熱は蚊を介して感染します。ヒトからヒトに直接感染することはありません。
- 蚊に刺されてから3～7日程度で、高熱のほか、頭痛、目の痛み、関節痛等の症状が見られれば、デング熱の可能性もあるため、早めに医療機関を受診してください。
- なお、デング熱は感染しても重症化することはまれです。ほとんどの人は1週間程度で治ります。

これまで、広島県内で感染した事例はありません！！

■ 予防方法

1 蚊を発生させないようにしましょう！

- 幼虫の発生源をなくすため、1週間に一度は、住宅周辺に散乱している雨水がたまった容器（植木鉢の水受け皿、古タイヤ、汲み置き水等）の水をなくす。
- やぶ、草むらは刈取り、日当たりと風通しをよくする。



図1. ヒトスジシマカ幼虫の生息場所

LASR

2 蚊に刺されないようにしましょう！

- 日中、蚊の多い場所に行くときには、長袖シャツ・長ズボンなどを着用し、肌の露出を避ける。
- 必要に応じて、虫刺され防止薬や蚊取り線香を使用する。



蚊の対策について

お住まいの市町役場の蚊媒介対策部署へお問い合わせください。

こちらのHPもご覧ください

デング熱（病気）について

最寄の保健所保健課にお問い合わせください。



デング熱 ひろしまCDC

検索

このチラシは、環境・健康募金を使って作成し、市町公衆衛生推進協議会を通じて配布しています。

作成：一般財団法人広島県環境保健協会 地域活動支援センター
(広島市中区広瀬北町9番1号 TEL(082) 293-1512)

かんほきょう

検索